

平成 25 年 3 月

# 授業の手引き

高等学校 地理歴史科・公民科

愛知県総合教育センター





# はじめに

平成25年4月より、高等学校地理歴史科・公民科においても、新学習指導要領に基づく授業が学年進行で始まります。新学習指導要領は、「生きる力」の育成という理念を前回のものから引き継いでいますが、昨今では「生きる力」の意味を「社会を生き抜く力」として捉え、その育成こそが急務であるとの論調をよく目にするようになりました。先を見通すことの難しい時代にあつて、「生涯を通じ不断に主体的に学び考える力」や「予想外の事態を自らの力で乗り越えることのできる力」、そして「グローバル化に対応し活力ある社会づくりに貢献することのできる力」などの育成が求められていると言えます。学校教育において育成する力が、真に社会で通用するものか否かが改めて問われているのです。地理歴史科・公民科が「社会」を教える教科である以上、我々はこの要請と真摯に向き合わざるを得ません。少なくとも我々は、高等学校での学びを在学中の3年間だけで捉えるのではなく、中学校までに取り組まれた生涯学習のための基盤づくりを引き継ぎ、3年後にはその基盤をより確固たるものにさせるのだという自覚をもつ必要があります。

この手引きは、教科指導の充実に関する研究委員が、「どうしたら高等学校卒業後にも通用する力を授業で身に付けさせることができるのか」について、今までの教職経験を基に授業内容や授業方法を検討し、「授業の手引き（高等学校地理歴史科・公民科）」（平成16年3月）を改訂する形でまとめたものです。ここに全てのことが示されているというわけではありませんが、授業を行うに当たって参考になることも多いと思います。ぜひこの手引きを基に自分なりの工夫を加え、また、互いに授業実践の交流をして教科の指導力を高め、愛知県の地理歴史科・公民科教育を一步でも前進させていただきたいと願っています。

平成25年3月31日

## 教科指導の充実に関する研究（地理歴史・公民）委員

愛知県立津島東高等学校教諭 加藤 博紀

愛知県立東海南高等学校教諭 杉本 明隆

愛知県立阿久比高等学校教諭 筒井 誠

愛知県立豊田北高等学校教諭 山崎 理恵

愛知県立豊田高等学校教諭 平田 孝夫

愛知県立岡崎東高等学校教諭 浅岡 宏司

愛知県立刈谷北高等学校教諭 花見 英次

愛知県立安城南高等学校教諭 鈴木 啓仁

愛知県総合教育センター研究指導主事 坪井 佳代

愛知県総合教育センター研究指導主事 杉浦 義之

# 授業の手引き（高等学校地理歴史科・公民科）

## 平成25年度版

### 目次

はじめに

#### I 地理歴史科・公民科の授業が目指すもの

- I-1 授業改善の方向性 ..... 1
- I-2 各教科・科目で身に付けさせたい力 ..... 2

#### II 授業プランニング

- II-1 年間指導計画の作成 ..... 5
- II-2 学習指導案の作成 ..... 7

#### III 思考力等の育成に向けた授業づくりの視点

- III-1 言語活動の充実 ..... 10
- III-2 主題学習・課題探究学習とは ..... 11
- － ワークシートについて － ..... 13
- III-3 日常の授業における思考力等の育成 ..... 14
- － N I Eについて － ..... 16
- － 知識・技能の確実な習得のために － ..... 17
- III-4 授業実践例 ..... 18

#### IV 評価について

- IV-1 観点別評価の在り方 ..... 34
- IV-2 評価問題例 ..... 36

#### V 参考文献

..... 39

# I 地理歴史科・公民科の授業が目指すもの

## I-1 授業改善の方向性

高等学校地理歴史科・公民科の授業が、知識の詰め込みに偏っていると指摘されて久しい。学校教育法が一部改正され、学力観が明確にされる中で、高等学校の授業では、在学中に通用するだけにとどまらない、生涯にわたって学習するための基盤をつくることが求められている。

### (1) 地理歴史科・公民科授業の課題

高等学校地理歴史科・公民科の授業に対しては、かねてより「知識詰め込み・暗記中心型の教育」との批判がある。改めて何が問題であるかを挙げれば、次の三点に集約されるであろう。

- ◇ 板書を写し、教師による説明を聞くだけの受け身の授業になりがちである。
- ◇ 毎授業のねらいが明確にされず、したがって「導入」と「まとめ」のない授業となっている。
- ◇ 学力を評価する機会が定期考査に偏っている。また、定期考査の内容は、知識の有無に関する問いに偏っている。すなわち用語等をどれだけ多く暗記したかが試されることになる。

結果として、生徒には試験のための学習を強いることになる。中学時代の学習や、卒業後の学びとの接続に関する意識は希薄であると言わざるを得ない。

### (2) 学力の三要素

平成19年に一部改正された学校教育法では、学力の重要な要素として次の三点が示された。

- ① 基礎的・基本的な知識・技能
- ② 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等
- ③ 主体的に学習に取り組む態度

上記の学力観を踏まえ、①の確実な習得と、②の育成とのバランスの重視を基本方針の一つとして、学習指導要領が改訂された。そして、学習指導要領では、教育課程の編成及び実施に当たっての配慮事項として、②を育成する観点に立った言語活動の充実がうたわれた。高等学校地理歴史科・公民科の授業において、言語活動を通じた②の育成が急務であることは言うまでもない。

### (3) 目標達成志向の授業へ

平成21年に告示された高等学校学習指導要領地理歴史及び公民の各科目では、「2 内容」の最後の大項目または中項目が学習のまとめとしての意味をもち、授業において探究する活動を行うことが示された。大まかにまとめるならば、探究する活動とは、生徒自身が主題や課題を設定し、それまでの学習で習得した知識や技能を有効に活用して主体的な考察を行い、言語活動を手段として考察した結果を表現することである。それは、授業の集大成として、1年間ないし2年間で身に付いた上記(2)の②を披露する場でもある。そして、各科目では、探究する活動を通して、更に歴史的思考力や地理的な見方及び考え方等を身に付けさせることを目標としている。

探究とは、学びの全過程を生徒が主体的に行うことであり、この手法を会得することが、学び方を学ぶ上での目標となる。一方、各科目で培うべき力等を身に付けさせることも授業の目標である。授業改善を志向することとは、この二つの目標を達成するために、日々の授業をいかに組み立てるかを考えることに他ならない。どこに着目させて知識や技能を活用させ、主体的に考察させる場面を設けるか、また、思考力や見方をどのように高めていくか等、授業を構造化し、段階的・継続的な指導により目標達成までの道のりを描くのである。頭の中で「分かる」だけにとどまらない、考察・活用・表現等の能力を徐々に身に付ける授業、すなわち「できる」授業を目指すことで「暗記中心」の授業との決別を図るのである。

【参考】 地理歴史科・公民科の目標、評価の観点及びその趣旨

地理歴史科の教科目標		我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生き平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民として必要な自覚と資質を養う。
及びその趣旨 地理歴史科の評価の観点	関心・意欲・態度	歴史的・地理的事象に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。
	思考・判断・表現	歴史的・地理的事象から課題を見だし、我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を世界的視野に立って多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。
	資料活用 の技能	歴史的・地理的事象に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。
	知識・理解	我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。
公民科の教科目標		広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う。
の趣旨 公民科の評価の観点及びその	関心・意欲・態度	現代の社会と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け人間としての在り方生き方についての自覚を深めようとする。
	思考・判断・表現	現代の社会と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間の存在及び価値などについて広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。
	資料活用 の技能	現代の社会と人間にかかわる事柄に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。
	知識・理解	現代の社会的事象と人間としての在り方生き方とにかかわる基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。

I-2 各教科・科目で身に付けさせたい力

授業においては、地理歴史・公民各科目の基礎的・基本的な知識や、概念・技能の確実な習得を目指すとともに、科目に応じた「見方や考え方」を養うことが必要である。  
各科目で身に付けさせたい力等を見据え、その育成に資する授業づくりを心がけたい。

(1) 歴史

新しい学習指導要領では、歴史の授業を通じて身に付けさせるべき資質・能力を以下のように捉えている。

① 歴史学習の基本的技能（『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』世界史Bより）

- ◇ 歴史的事象の前後関係を把握し、因果関係を明らかにすること。
- ◇ 歴史的事象の空間的関係を把握し、その時代の世界の特質や諸地域世界相互のかかわりを明らかにすること。
- ◇ その時代の資料を取り上げて、内容、意図、ねらいなどについて考察し、生徒自らが歴史像を形成していくこと。

② 身に付けさせることをねらいとする力（『同解説 地理歴史編』日本史Bより）

- ◇ 資料から導き出された歴史的事象の、歴史の展開における意味や意義を解釈する力
- ◇ 歴史的手法を通じて得られた複数の解釈について、それぞれの資料的な根拠や解釈上の論理を踏まえて考えを説明する力

一方、歴史の授業で身に付けさせたい力等を考える上で参考になるものとしては、アメリカで1994年に発表された『歴史のための全米基準』がある（1996年に改訂）。そこでは、「歴史的思考

に関する基準」として、以下の5項目が挙げられている。

ア 年代順の思考：出来事の経過の正確な把握，継続と変化の理解

イ 歴史的理解：叙述の目的や意図，叙述内容とその根拠の読解

ウ 歴史的分析と解釈：類似点と相違点の比較，因果関係の分析，自身の歴史像の構築

エ 歴史的研究能力：収集した資料の批判的な読解と論理の組み立て

オ 歴史の争点分析と意思決定：代案の立脚とその是非の評価，課題解決のための意思決定以上，①，②で紹介した能力等，及び「歴史的思考に関する基準」を踏まえ，歴史の授業では，次のような力を身に付けさせたい。

- 歴史的事象相互の因果関係や共通点・相違点を捉えて思考する力
- 歴史叙述等の資料に対する批判的な見方や多面的・多角的な見方に基づいて思考する力
- 歴史叙述等の資料を根拠として歴史像を形成する力

歴史科目の最終的なねらいは、「国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う」ことにある。上記の力を基に，現代社会が当面している課題の解決や将来的な展望について，歴史的事象の中に論拠を見いだし，自らの意見を構築できる生徒を育てたいものである。

## (2) 地理

地理の授業を通して身に付けさせるべき思考力は，以下の①及び②を基盤としている。

### ① 地理的な見方や考え方

地理的な見方や考え方とは、「いろいろな物事の地理的・空間的な広がり注目して，そのパターンや特徴を捉え，それが作り出されるメカニズムや，広がりや違いから生じる地域間の差異などを読み解き・考察していく」ことである（「地理学的な見方・考え方とは？」国士舘大学文学部地理・環境専攻パンフレット第四版より）。高等学校学習指導要領解説では，「地理的な見方」と「地理的な考え方」に分けて，次のように説明している。

◇ 地理的な見方：日本や世界に見られる諸事象を位置や空間的な広がりとの関わりで地理的事象として見いだすこと。

… どこに，どのようなものが，どのように広がっているのか。どのような空間的な規則性や傾向性が見られるのか。

◇ 地理的な考え方：地理的事象を地域という枠組みの中で考察すること。

… なぜそこで，そのように見られるのか。なぜ，そのように分布したり移り変わったりののか。

### ② 地理的技能

地理的な見方や考え方は，地理的技能の上に立って育成されるものである。高等学校学習指導要領解説では，「地理情報の活用に関する技能」と「地図の活用に関する技能」に分けて，次のように説明している。

◇ 地理情報の活用に関する技能

- ・地理情報を選別し，地理情報の性格，種類などを捉えること。
- ・地理情報の所在，収集に関する知識や方法を身に付けること。
- ・情報の地理情報化の視点や方法を身に付けること。
- ・地理情報の処理や表現に関する技能を身に付けること。

#### ◇ 地図の活用に関する技能

- ・地図に慣れ親しみ、見知らぬ地域を地図を頼りにして訪ね歩く技能を身に付けること。
- ・学習や日常生活の中で出てくる地名に関心をもち、その位置を確かめるようになること。
- ・地図から地理的事象を読み取ったり、地理的事象を地図を通して追究し捉えたりする技能を身に付けること。
- ・地域の諸事象や情報の地図化の適否を判断し、適切に地図化する技能を身に付けること。
- ・略地図を描く技能を身に付け、略地図で位置を示したり、略地図を使って日本や世界に見られる諸事象を捉え、説明したりするようになること。

具体的な技能としては、「地図の読図や作図」「衛星画像や空中写真、景観写真の読み取り」が身に付けるべきものとされている。また、インターネットやGIS（地理情報システム）などを活用して情報を収集・分析すること、目的に応じて表やグラフを作成すること、野外での調査・観察・聞き取りを行うことも具体的な技能である。

以上を踏まえ、地理の授業では次のような力を身に付けさせたい。

- 地理的技能に裏打ちされた地理的な見方や考え方を基に、地理的な諸課題や諸事象を考察する力

### (3) 公民

公民科の教科目標は、「公民としての資質を養う」ことである。「公民的資質」とは、およそ以下の5項目を基盤とするものである。

- ア 現代の社会について探究しようとする意欲や態度
- イ 社会についての広く深い理解力と健全な判断力
- ウ 豊かな社会生活を築こうとする自主的な精神
- エ 人間としての在り方生き方についての自覚
- オ 自己の人格の完成に向かおうとする実践意欲

こうした能力や態度を、公民科における各科目の目標に合わせて考えると以下のとおりとなる。

#### ① 現代社会

- ◇ 現代社会の基本的な問題に対する判断力
- ◇ 人間としての理解を深め、在り方生き方を考える力
- ◇ 主体的に学習に取り組むための学び方の習得を図ること。

#### ② 倫理

- ◇ 自己形成の課題や人間としての在り方生き方について考える力
- ◇ 他者と共に生きる主体として、深く自己を見つめる態度

#### ③ 政治経済

- ◇ 平和で民主的な国家・社会の形成者として必要となる判断力
- ◇ 公共的な事柄に自ら参画していくための意欲

以上、「公民的資質」に関する5項目と公民科における各科目の目標を踏まえ、公民の授業では次のような力を身に付けさせたい。

- 人間としての在り方生き方について考える力
- 社会の諸課題について主体的に判断する力
- 現代の社会と人間の関わりについて理解する力



## Ⅱ 授業プランニング

### Ⅱ－1 年間指導計画の作成

学習指導要領で示された各科目の目標の実現に向けて、1年間の授業における学習内容等を記したものが年間指導計画である。教科会等において相談を密に行って、1年後、もしくは2年後の目標達成のイメージを教員間で共有し、段階的な指導計画を作成したい。

愛知県立の高等学校で使用する年間指導計画の記入例を次ページに掲載する。

留意事項等については、以下のとおりである（各番号は、記入例の吹き出しの番号に対応）。

#### ① 「科目の目標」

- ・学習指導要領に示された各科目の目標を記入する。

#### ② 「評価の観点及びその趣旨」

- ・「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料【高等学校 地理歴史】または【高等学校 公民】」（国立教育政策研究所教育課程研究センター，平成24年7月）を参照する。

#### ③ 「単元及び学習内容」

- ・学習指導要領の項目名または教科書の単元名を記入する。ただし，教科書は，学習指導要領の内容を超えて発展的または補足的に記述されている場合もあり，内容の全てを網羅する必要はない。
- ・学習指導要領の大項目が全て満たされているようにする（2年間にわたって履修する科目については，2年間で全ての大項目が満たされているようにする）。
- ・主題や課題を設定して行う学習の場合は，その主題や課題についても記入する。ただし，生徒に主題または課題を設定させる場合はその必要はない。

#### ④ 「評価規準」 ※評価の詳細については34，35ページを参照。

- ・小単元または中単元ごとに評価規準を設定する。各学校において，学校や生徒，地域の実情を踏まえて適切に設定するとともに，実際に評価を行い，指導の改善に生かす。
- ・文末は，「～（し）ている。～できる。」という表現で統一する。

#### ⑤ 「評価の観点」

- ・評価規準に照らして評価の観点を設定し，○を付ける。
- ・特定の観点到偏ることがないように留意する。また，1時間の授業の中で，4観点全てについて評価するのではなく，重点化する。

#### ⑥ 「評価方法」

- ・各学習場面における生徒の学習状況を的確に評価できる方法を設定する。

#### ⑦ 「進捗状況」（学期末及び学年末に記述）

- ・学習活動及び学習評価の進み具合を記録する。

#### ⑧ 「反省等」（学期末及び学年末に記述）

- ・学習評価の結果を今後の指導の改善にどう結び付けるかという視点から記述する。具体的には，各単元における観点ごとの評価の結果と，定期考査等における評価の結果を合わせて，学期末に評価を総括し，目標の達成度合いや今後の課題を記述する。

#### ⑨ 「学級別実施時間」（学期末及び学年末に記入）

- ・学期ごと，または学年末に各学級の実施時間を把握する。

#### ⑩ 「年間配当時間」

- ・1単位当たり35単位時間を標準とする。

校長	教頭	教務主任	教科主任

平成〇〇年度 年間学習指導計画

教科	公民	学年	〇	教科書(発行者)	現代社会(〇〇出版)	指導者	□ □ □ □ 印
科目	現代社会	単位数	2	補助教材(発行者)	図説現代社会(△△書店)		× × × × 印

科目の目標 人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民としての必要な能力と態度を育てる。

1 関心・意欲・態度	2 思考・判断・表現	3 資料活用・技能	4 知識・理解
現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的現象を総合的に考察しようとする態度と平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄から課題を見出し、社会的現象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用して学び方を身に付けている。	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方に関する基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。

学期	月	単元及び学習内容	配当時間	評価の観点				評価規準	評価方法	進捗状況	反省等
				1	2	3	4				
一学期	4	第1部 私たちの生きる社会 ①地球環境と資源・エネルギー ②科学技術の発達と生活 ③情報化の進展と生活 「現代社会の課題を高校生の視点から考えよう」	2					現代社会の諸課題を捉えて考察するための基本的な枠組みを構成するものとして「幸福、正義、公正」などがあつたことを理解するとともに、これらが社会の在り方を理解する上で大切であることを考察し、考察した結果を表現している。	課題探究学習		②
		第2部 現代社会と人間 第1章 青年期と自己形成の課題 1 現代社会と青年の生き方 ①現代社会における青年期 ②自己形成と社会適応と生きかたを創る	6					現代社会に生きる青年として、青年期の意義について関心を高めている。	行動観察 ノート確認 発問への回答 プリント課題 定期考査 課題考査		
	5	2 よりよく生きることを追求して ①哲学と人間 ②宗教と人間 ③近代科学の考え方 ④人間の尊厳 ⑤人間性の回復を追求して ⑥日本の伝統思想を追求して ⑦外来思想の受け入れと日本人の自覚	6					自己の内面形成と社会との関わり合いの形成の課題を考察し、青年として与えることの大切さについて自覚している。			
	6	第2章 日本国憲法と民主政治 1 民主政治とは ①民主政治の成立 ②基本的人権の確立 ③世界の政治体制	3					民主政治の基本原則に基づきながら、日本国憲法の基本的原則と政治機構、民主政治における世論形成と政治参加の意義について理解している。			
	7	2 日本国憲法の基本原則 ①日本国憲法3つの原則 ②基本的事件の保障 ③新しい人権と人権保障の進展 ④平和主義と安全保障	4					民主政治の前提となる個人の在り方について、個人と国家を中心に考察している。	行動観察 ノート確認 発問への回答 プリント課題 定期考査 課題考査		
	3	3 日本の政治機構 ①国会と立法 ②内閣と行政 ③裁判所と司法 ④地方自治 4 現代政治の特質と課題 ①選挙の構造と課題 ②政党と利益集団 ③世論と政治	7					民主社会に主体的に生きる人間としての在り方生き方について、資料を活用して考察している。			
		定期考査・課題考査等									
二学期	7	第3章 個人の尊厳と法の支配 1 個人の尊厳と法の支配 ②司法と人権	7					「幸福、正義、公正」などを用いて、基本的人権の保障や法の支配の実現の大切さを考察している。 個人の尊厳を基礎として、基本的人権の保障と法の支配が相互に関連していることを理解している。	行動観察 ノート確認 発問への回答 プリント課題 定期考査 課題考査		⑧
	9	第4章 現代の経済と国民福祉 1 経済の仕組み ①経済社会の変容 ②現代の企業 ③市場経済の仕組み ④国民所得と経済成長 ⑤金融のしくみと働き ⑥中央銀行の役割と金融の自由化 ⑦政府の役割と財政	7					自由な経済活動を基本とする市場経済の意義と機能やその限界、財政・租税、金融について理解を深めている。	行動観察 ノート確認 発問への回答 プリント課題 定期考査 課題考査		
	10	2 変化する日本経済 ①戦後復興と高度経済成長 ②産業構造の転換と国際経済環境の変化 ③経済のバブル化とその後 ④日本経済の現在	4					雇用、労働問題、社会保障について関心を高めている。			
	6	3 豊かな生活の実現 ①自立した消費者への道 ②労働者の権利 ③現代の雇用・労働問題 ④社会保障の役割 ⑤環境保全と循環型社会	6					個人や企業の経済活動における役割や責任について、資料を活用して考察している。			
	11	第5章 国際社会と人類の課題 1 国際経済のしくみと動向 ①貿易と国際分業 ②外国為替のしくみと国際収支 ③戦後国際経済の枠組みとその変化 ④対立と協調の時代 ⑤グローバル化の進展	6					グローバル化が進化する国際社会の動きを、政治や経済の動向を取り上げて具体的に概観し、国際政治や国際経済に関する諸問題などについて考察して、その結果を表現している。	行動観察 ノート確認 発問への回答 プリント課題 定期考査 課題考査		
		定期考査・課題考査等	3								
1	12	2 国際政治のしくみと動向 ①国際社会の成り立ち ②国際紛争を避けるしくみ ③国際法の現状と課題 ④東西対立とその後の世界 ⑤核兵器と軍縮への取り組み ⑥グローバル化する国際経済	5					国際平和及び国際協力や国際協調を推進する上で、国際的な組織の果たす役割が増大していることを認識している。	行動観察 ノート確認 発問への回答 プリント課題 定期考査		⑨
		3 国際社会の現状と課題 ①地域統合の進展 ②多様化する世界経済 ③南北問題 ④人口・資源・食糧問題 ⑤民族問題と紛争 ⑥国際社会と人権 ⑦日本の役割	7					国際社会における日本の果たすべき役割及び日本人の生き方について資料を活用して考察している。			
	2	3 持続可能な社会の形成に参画するという観点から、現代社会における課題について探究し、現代社会に対する関心を高めている。 現代に生きる人間としての在り方生き方を考察している。	4					課題探究学習			
	3	第3部 共に生きる社会をめざして 「なぜ日本の森林は緑だったのか」	4								
		定期考査・課題考査等	2								
		年間配当時間	70								
		年間実施時間									

課題考査や実力テストなども含める。